



幼稚園で予防すべき感染症について

～病気の種類と出席停止期間～



幼稚園では、予防しなければならない感染症が法律で定められています。これらの感染症にかかった場合は出席停止となり、感染のおそれなくなるまでは登園を見合わせていただくことになっています。これらの感染症にかかった時には、速やかに幼稚園にご連絡ください。なお、治癒して登園する際には、同胞幼稚園 HP からダウンロード出来る治癒証明書（新型コロナ／インフルエンザの場合は療養報告書）をご提出ください。

病名		出席停止期間				
第1類	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、ジフテリア、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、痘そう、南米出血熱、SARS、新型インフルエンザ（H5N1）、中東呼吸症候群（MERS）	治癒するまで				
病名		主な症状	感染経路	潜伏期	出席停止期間	
第2類	インフルエンザ	高熱、関節・筋肉痛 倦怠感、かぜ症状	飛沫（気道） 接触	1～2日	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで	
	百日咳	特有の激しい咳 かぜ症状	飛沫（気道）	6～15日	特有の咳が消滅するまで又は、5日間の適切な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	
	麻疹（はしか）	全身の発疹、発熱、鼻水、咳	飛沫	10～12日	解熱した後3日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺の腫れと痛み（押すと痛む）、発熱	飛沫	2～3週	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	
	風疹（三日はしか）	発熱、発疹、リンパ節の腫れ	飛沫	2～3週	発疹が消えるまで	
	水痘（水疱瘡）（带状疱疹を含む）	発疹→水泡→かさぶた/軽い発熱	飛沫 接触	2～3週	すべての発疹がかさぶたになるまで	
	咽頭炎膜熱（プール熱）	発熱、のどの痛み 目やに、目の充血	気道 接触（角膜）	5～6日	主な症状がなくなってから2日経過するまで	
	結核	微熱、咳、倦怠感	飛沫（気道） 接触	一様でない	症状により園医その他の医師において、感染のおそれがないと認めるまで	
第3類	髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛など髄膜炎症状	飛沫	2～10日	症状により園医その他の医師において、感染のおそれがないと認めるまで	
	腸管出血性大腸菌感染症	激しい腹痛 水様性の下痢、血便	経口	4～8日	症状により園医その他の医師において、感染のおそれがないと認めるまで	
	流行性角結膜炎	目の充血、異物感 まぶたの腫れ、目やに	接触	1週以上		
	急性出血性結膜炎	結膜の白目の部分の出血、目の激しい痛み、浮腫、涙	経口	1～2日		
	コレラ	突然激しい水様性下痢と嘔吐で発病、脱水症状	経口	数時間～3日		
	細菌性赤痢	発熱、腹痛、下痢、嘔吐、血便	経口	1～5日		
	腸チフス	発疹（バラ疹）	経口	1～2週		
	パラチフス	持続する発熱、発疹（バラ疹）※腸チフスより症状が軽いことが多い	経口	1～2週		
	その他の感染症	溶連菌感染症	発熱、のどの腫れ、発疹、イチゴ上の舌	飛沫	2～7日	条件により出席停止となる感染症であり、園長が園医の意見を聞き期間を決定する
		ウイルス性肝炎（A型）	発熱、倦怠感、食欲不振、黄疸	経口	4～7週	
		手足口病	軽い発熱、手足・口中に小さい水泡	飛沫 経口	2～7日	
		伝染性紅斑（リンゴ病）	両ほほの盛り上がった紅斑、発熱	飛沫	7～18日	
		ヘルパンギーナ	発熱、口内炎、のどの痛み	飛沫 経口	2～7日	
		マイコプラズマ感染症	かぜ症状、咳	飛沫	2～3週	
流行性嘔吐下痢症		嘔吐、下痢	飛沫 経口	1～3日		
アタマジラミ		かゆみ 無症状の事もある	接触			
水いぼ	いぼ	いぼ		通常、出席停止の必要はありません		
伝染性膿か疹（とびひ）	小さい水泡→破れて膿が出る かゆみ	接触（分泌液）	2～5日			

